

言語表現法	1年・前期	1単位 15時間	准教授 原田桂
科目カテゴリー	人としての教養	科目ナンバリング	31210121

1. 授業のねらい・概要

医療現場において、正確かつ的確に用件を文章化する能力や伝達する対話力は必要不可欠である。そこで、学生が基礎的な文章のルールを確認しつつ、明確に表現するための日本語表現能力の向上を目指す。さらに、論理的思考を用いて文章の構造やテーマを探る読解力を磨き、それを自らの文章によって表現できるようにする。

2. 学修の到達目標

1. 基礎的な文章表現のルールを確認しながら、実務において対応できる文章を書くことができる。(D-5)
2. 文章表現の基盤となる語彙／ボキャブラリーを増やし、対人関係を良好に保つための配慮表現・噛み砕き表現・やさしい表現・婉曲表現ができる。(D-5)
3. 様々なシーンに対応できる敬語表現を習得し、正しい敬語を用いた対話ができる。(D-5)

3. 授業の進め方

「読む／書く」「聞く／話す」ことを主軸とし、目的や条件に応じた文章作成を反復しながら問題点を指摘する方法で授業を進めていく。また、媒体の違った表現を文章化するなど、それを他者へ正確に伝える能力を身に付けたい。さらにレポートや小論文等も含め、基礎的な文章表現のルールを確認し、目的に合わせたコミュニケーションの形式を実践すべく、プリントを用いて学習する。なお、漢字検定、文章読解・作成能力検定他、『看護学生必修の漢字・熟語』（土屋書店）等からの漢字の読み書きと慣用句や故事成語などの小テストや、敬語表現の小テストを毎時（10分程度）行う。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして、事前学習型授業、双方向アンケート、小テスト・レポートを用いる。

【ICT活用の有無】

ICT活用の実施：Googleform等によるコメントの集計等。

4. 授業計画（講義・演習）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	【概論】「言語」とは何か？「悪文」とは何か？	講義	予習：事前に Googleform にて言語コミュニケーションについてのアンケートを実施する。 復習：概論についてのプリントを整理し確認する。	原田桂
2	【基本構文①】（直接話法と間接話法） （話し言葉と書き言葉）特色と違い	講義	予習：事前に配布する小テスト①の範囲の問題に取り組む。 復習：話法と文章化についてのプリントを整理し確認する。	原田

3	【図化⇔文章化】 (表示と表現)(説明と描写)(事実と意見)特色と違い	演習	予習:事前に配布する小テスト②の範囲の問題に取り組む。 復習:返却された提出物や小テスト①で間違えたポイントを確認する。	原田
4	【聴覚情報の言語化】 電話応答時のメモの取り方	演習	予習:事前に配布する小テスト③の範囲(語彙の読みと意味調べ)に取り組む。 復習:返却された提出物や小テスト②で間違えたポイントを確認する。	原田
5	【基本構文②】 読解と要約文	演習	予習:事前に配布する小テスト④の範囲(語彙の読みと意味調べ)に取り組む。 復習:返却された提出物や小テスト③で間違えたポイントを確認する。	原田
6	【表現演習】 配慮表現・嘯み砕き表現 やさしい表現・婉曲表現	演習	予習:事前に配布する小テスト⑤の範囲の問題に取り組む。 復習:返却された提出物や小テスト④で間違えたポイントを確認する。	原田
7	【敬語表現】 基本の分類・電話応答声掛け	演習	予習:事前に配布する敬語の分類や問題に取り組む。 復習:返却された提出物や小テスト⑤で間違えたポイントを確認する。	原田
8	まとめと試験	講義	予習:指定した範囲や返却された小テスト①～⑤を振り返り試験に備える。 復習:試験で間違えた問題を振り返る。	原田

5. 成績評価の方法・基準

定期試験(受験資格は3分の2以上の出席した者)50%,提出物20%,小テスト20%,授業での発言及び取り組み姿勢等10%で評価する。

成績評価は「2.学修の到達目標」に示した達成状況を、ルーブリック評価表(到達はA評価)を基に採点する。なお、ルーブリック評価表に関する詳細は、第1回講義内で別途説明する。

また、定期試験の出題範囲及び出題方法等は、事前に口頭及び授業時のスライドで提示する。

6. テキスト・参考文献

毎時プリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

毎時10分程度の小テストを行うので、事前に配布したプリントの指定範囲の予習を90分程度、また配布物が多いため、プリント類の整理をしながら90分程度は復習すること。

8. 受講上の留意事項

遅刻、欠席、授業中の私語および授業に関連する作業以外の行動は、授業の取り組み姿勢として評価対象とするので注意すること。また、生成AIや検索エンジン及びツールに頼るのではなく、自己の思考を大切にすること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

添削，講評した課題や提出物などは，その都度返却し解説する。また，復習と定着に役立つよう無記名にして様々な解答パターンを授業内で紹介する他，ミニッツペーパーや Googleform などで回収したコメント類も集計し配布する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目である。(履修要覧・学生便覧参照)

11. 実務経験のある教員等による授業科目

教育機関でのアカデミック・ジャパニーズ指導（日本語非母語話者及び母国語話者）を活かして，講義・演習を行う。